自由民主党

世田谷区議会議員

和田ひでとし通信

第十三号



ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。
平成二十八年はオリンピック・パラリンピックまであと四年あまりとなり、世田谷区も大きく変わろうとしています。**変えるべきものは勇気をもって変え、同時に、変えてはならないものはしっかりと守っていく**という、信念と覚悟をもって活動を続けてまいります。
今年もどうぞよろしくお願いいたします。



代表質問全項目

今回は以下の項目について代表質問をしました。紙面ではご報告しきれませんでしたので、詳しくはお問い合わせください。

- 教育行政に対する教育長の方針について
- 総合戦略について
- 今後の財政運営について
- 公共施設に対する今後の展望について
- **本庁舎建設について**
- 図書館への民間活力導入について
- 適正な職員体制について
- 地域行政制度の新たな展開について
- **自助、共助、地域の防災力向上について**
- 地域包括ケアの全地区展開について
- 保育待機時対策と子育て支援関連施策について
- 新しい介護予防・日常生活支援総合事業について
- 健康寿命の延伸について
- **道路整備について**
- オリンピック・パラリンピックを契機とした区の取り組みについて

今後の予定

- **第１回 区議会定例会**
  ２月24日（水）～３月29日（火）
  （予算特別委員会）
  ３月８日（火）～３月24日（木）

インターネットで「和田ひでとし」と検索してください！
和田ひでとし　検索

あなたのご意見をお聞かせください！
info@wadahidetoshi.com

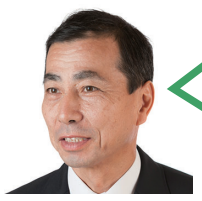
第三回定例会本会議 一日目 代表質問

２期目の最初の年である今年度は区議団政調会長のお役をいただき、年１度の代表質問を担当することになりました。区議団を代表し、４０分の時間をいただいて各領域の質問をします。今回は９月１７日、第３回定例会本会議２日目で質問しました。１１月１６日発行の「区議会だより」に掲載されましたが、ここでは少し詳しくご報告いたします。

「世田谷区役所の本庁舎建設について」

公共施設整備の中で最大の懸案事項は、本庁舎の建設です。本庁舎建設において重視すべきは、防災拠点としての機能が果たせる耐震性の確保、建物としての機能性、区民の利便性、事業費の抑制などであるべきです。





QUESTION

災害対策機能や利便性を第一に考えれば、全面改築して免震構造を導入し、さらに庁舎を一つに集約すべきであり、いまだに景観にこだわることなど到底理解できません。大切なのは区民の命であり断じて景観や建築物ではありません。本庁舎の建設に対する区の明確な答弁を求めます。

ANSWER



世田谷区長

今般お示しした検討状況においては、中庭を囲む特徴的な景観を継承し、第一庁舎、区民会館、低層棟の配置と高さをできるだけ現在と同程度にし、中庭を中心に建物の高さを抑えた住宅地の中にある庁舎として、周辺環境と調和を図ることにいたしました。
この景観については、これまで有識者アドバイザーや、今年度御意見をいただいた有識者からも、東側敷地の景観が特徴的で大切にすべきだという御意見をいただいており、本庁舎の世田谷らしさとして整備したものであります。

景観を優先して考えるとは…
災害対策機能は？
区民の利便性は？
とても信じられません！
基本構想素案は２月上旬に発表予定です。区民の皆さまの為にしっかりと検証してまいります。



現在の中庭より、右が区民会館・左が第一庁舎

「道路整備について」

現在進めている道路事業を切れ目なく着実に進めることが、行政の継続性から、そして何より町を守り、命を守るために不可欠であると考えます。しかし、道路整備を積極的に進めるのか、ただ単に立ちどまるのか、あるいは後退するのか、就任２期目となった今でも区長の姿勢が見えてきません。

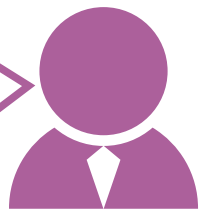




QUESTION

現在の主要な生活道路の整備率と国、都からの特定財源の配分を踏まえた区の予算措置の状況はどうか、あわせて、今後の道路整備に対する区の姿勢について明確な答弁を求めます。

ANSWER



副区長

世田谷区内の都市計画道路は、平成２６年度末の整備率が約５割弱と、２３区内の平均を大きく下回っている状況となっております。また、都市計画道路を補完する主要生活道路の整備率につきましても約４割弱となってございます。
まちづくりの礎となり区民の生命と財産を守る道路整備は行政の責務であり、区といたしましては、事業の条件や地域の状況などを踏まえ、適切に特定財源を充当しながら、必要な予算を確保し、遅れている道路の整備を着実に進めてまいりたいと考えております。

道路は単に車を通すだけのものではなく、災害時には避難路や延焼遮断帯となるなど、区民の命を守る最重要の都市基盤です。道路整備事業ができるのは行政だけ、道路整備は決して避けては通れない行政の責務だと、再度強く申し上げておきます。



下北沢駅付近の補助五十四号線道路事業予定地

裏面へつづく

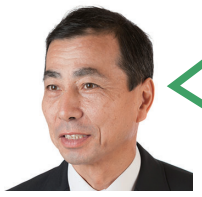
2016年1月 発行　世田谷区議会議員 和田秀壽　〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 1-40-2　TEL 03-3720-3542　FAX 03-3720-6928

表面からのつづき

「自助・共助、地域の防災力向上について」

昨年度から始まった「防災塾」。価値ある取り組みであると評価される一方で、区が開催する単なるイベントとの認識や、関心もなく、開催されていることすら知らない区民もいるのではないでしょうか。

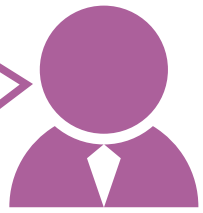




QUESTION

突然襲ってくる災害に対して本当に機能する、いざというときに命を救うことができる取り組みについて、どのように考えるのか伺います。

ANSWER



危機管理室長

地区における今後の防災対策、今後策定する地区防災計画の検討を進めるに当たり、町会・自治会を初めとする防災塾参加団体等を中心に、防災対策の状況や備蓄状況を調査してまいります。
今後も防災塾での区民同士の御議論と、災害時を想定した地域での防災訓練、避難所訓練等の実践とを有機的に組み合わせることで、地区の共助の力が災害時に十分発揮できるよう、総合支所と連携して地区防災力の向上に努めてまいります。







地区防災訓練（十二月十二日～十三日）
左上　プールでの放水訓練
右上　はしご車での救出訓練
下　冬の災害時を想定した避難所宿泊訓練
体育館の夜はやはり寒かったです。
避難所へ行かなくても済むような自助の取り組みが大切です。



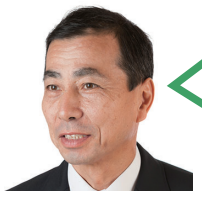
地域の防災力向上に向けては、町会・自治会を初めとする地域の方々の御尽力によりさまざまな取り組みが行われています。地域を熟知した方々のこうした地道な取り組みを区がしっかりと支援し、ともに災害に備えることは、必ずや命を守ることにつながるはずです。

第３回区議会定例会 決算特別委員会 総括質疑（平成２７年１０月２日）

「災害時の拠点体制について」

９月の関東・東北での大雨による被害、これはまさに想定外の大きさでありましたが、こういった近年の気象状況の変化は、これまでの想定では対応できなくなってきていることは明らかだと思います。特に地域の拠点となるべき、市役所が機能できなくなったということは誰も想像できなかったことではないでしょうか。

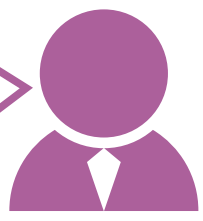




QUESTION

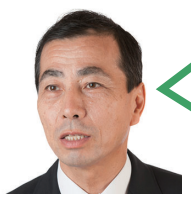
世田谷区では災害時の地域地区の拠点となる総合支所、まちづくりセンターにおいて水害によるリスク、洪水による影響は想定されているのかを改めて伺いたいと思います。

ANSWER



危機管理室長

災害時において区の拠点となる総合支所、出張所・まちづくりセンターのうち、やはり一部で浸水の可能性があると示されております。その多くは２０センチから５０センチ、最大で１メートル程度の浸水の可能性というものでございます。



QUESTION

それでは、洪水による影響があると想定される施設における対策の状況はどうなっているのか、また、今後は大地震だけではなく、水害にもしっかりと対応すべきと考えますが、改めて区の見解を伺います。

ANSWER

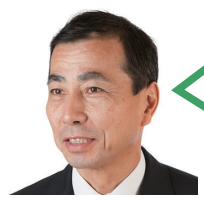


危機管理室長

該当する出張所・まちづくりセンターについては、古い施設も多く、施設面で特別の対応というものが行われていないのも現状でございます。これらにつきましては、改善改修等に合わせて必要な対応をとってまいりますが、あわせて、今回の関東・東北豪雨も教訓にして、浸水に備えた職員の日ごろの施設設備の防御対応、それから行動なども確認してまいりたいと考えております。



世田谷区・第三消防方面合同水防訓練



QUESTION

玉川地域の拠点でもあります玉川総合支所が改築の計画中であります。玉川総合支所については、新庁舎は豪雨時でも災害対策地域本部として機能できる設計となっているのか、ここで改めて伺いたいと思います。



現在の玉川総合支所

ANSWER

玉川総合支所につきましては現在、改築計画につきまして基本設計を進めておりまして、基本構想の基本方針の一つとして、災害時対応機能の強化を掲げており、地震対策のほか、水害への対応も想定して検討しているところでございます。災害対策機能の強化について、震災だけでなく、水害の想定に対しても引き続きしっかり検討し、地域の拠点として安全で安心な庁舎を建設してまいりたいと考えております。

玉川総合支所長



総合支所・まちづくりセンターは、災害時、区民の命を守る拠点ですから、しっかりと計画を進めていただきたいと思います。